

報告事項エ

「鳥取県ちいわか総選挙」の開票結果（中学生）について

「鳥取県ちいわか総選挙」の開票結果（中学生）について、別紙のとおり報告します。

令和7年12月24日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

「鳥取県ちいわかつながり総選挙」の開票結果（中学生）について

令和7年12月24日

小中学校課

鳥取県における主権者教育の初の試みとして、今年度から県内の小学6年生と中学3年生の児童生徒を対象に実施している「鳥取県ちいわかつながり総選挙」について、12月15日に、中学生版の開票結果が発表されたので、報告します。

※ちいわかつながり…地域とつながり、地域に愛着を持ち、地域のことと我が事ととらえて、積極的に投票その他政治参加する若者

1 鳥取県ちいわかつながり総選挙

鳥取県の主権者教育プログラムとして、小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部6年生、中学校・特別支援学校中学部3年生・義務教育学校9年生の児童生徒を対象に、鳥取県の施策等に関するオンライン投票を全県で実施。

2 総選挙（中学生）の流れ

- ①県内の中学校、義務教育学校、特別支援学校に教材を配布
- ②各学校において教材を活用し、授業・オンライン投票を実施
- ③投票結果を公表し、最多得票を得たものは実際に鳥取県の施策等に反映

3 令和7年度投票テーマ

中学生投票テーマ：若者が求める鳥取県立美術館の「オープンネス」の取組

県立美術館は、「オープンネス（※）」をキーコンセプト（中心の考え方）として位置づけ、「誰に対しても開かれり」、「多様性を受け入れる」ことを運営の基本姿勢としている。「オープンネス」をさらに推進していくにあたり、鳥取県立美術館に「こうなって欲しい」、「もっと力を入れてもらいたい」と考えるものを、各学校の授業の中で教材を活用し、次のA～Cの候補の中からオンライン投票した。

A：誰もが安心して楽しめる美術館 B：誰もが使える、開かれた場所としての美術館 C：地域とつながり、県全体に広がる美術館

※オープンネス…開放性や寛容性などを表現するとともに、“誰に対しても開かれり、多様性を受け入れる”をコンセプトに、県立美術館が目指す姿を表すプランディングワード。

4 選挙結果

(1) 対 象 中学校・特別支援学校中学部3年生、義務教育学校9年生

(2) 投 票 期 間 令和7年9月1日（月）から12月5日（金）まで

※インフルエンザの流行等により、当初の投票期間（11月28日（金）まで）を延長。

(3) 投 票 率 68.4% (3,236人/4,731人)

(4) 学校参加率 80.6% (54校/67校)

(5) 開 票 結 果 第1位 A 誰もが安心して楽しめる美術館 1,493票 (46.1%)

第2位 B 誰もが使える、開かれた場所としての美術館 972票 (30.0%)

第3位 C 地域とつながり、県全体に広がる美術館 771票 (23.8%)

5 授業を行った教員の感想（事後アンケートより）

- ・1人1台端末を活用して意見を集約すると、生徒たちはとても主体的に投票に取り組んだ。地方自治の単元とつなげることは、難しさも感じたが、政治参加や民主主義への意識向上にはつながった。
- ・中学生が県の統一のテーマで選挙を行う取組は面白いと感じた。
- ・中学校では「生徒会選挙」を多くの学校が実施している。生徒にとっての身近な選挙であり、「現実の投票に近づけることで実際の投票の様子を把握すること」や「投票においての心構え」などを各校工夫している。今回のちいわかつながり総選挙で美術館について考えることも生徒の視野を広げる意味で良い教材だと思ったが、現状のカリキュラムの中に組み込んでいくことに負担を感じたのも事実である。
- ・生徒が判断する材料として、もう少し資料や実態、なぜそのような美術館を目指しているのかきっかけとなる事案など、判断する根拠となるものが増えるとより議論が活発になると思う。

6 鳥取県ちいわかつながり総選挙（中学校用）に関する配布資料一覧

			
---	---	--	---

鳥取県 2025

ちいわか

開票結果

総選挙



投票テーマ

「若者が求める鳥取県立美術館の 「オープンネス」の取組

※オープンネス
開放性や寛容性などを表現する
とともに、“誰に対しても開かれ、
多様性を受け入れる”をコンセプトに、
県立美術館が目指す姿を
表すブランディングワード。



鳥取県立美術館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

鳥取選挙区

開票終了

有権者：4,731人

鳥取県内 中学校3年生

特別支援学校中学部3年生

義務教育学校9年生

投票率：68.4%

誰もが安心して
楽しめる美術館

1,493票 得票率
46.1%

誰もが使える、開かれた
場所としての美術館

972票 得票率
30.0%

地域とつながり、
県全体に広がる美術館

771票 得票率
23.8%

みんなの投票で、県立美術館の「オープンネスの取組」が決定しました。
18歳になれば、実際の選挙で投票し、政治を行う人を選んだり、自分の意見を世の中に反映させたりできます。これからも一人ひとりの投票が鳥取県、そして日本を変えるということを覚えていてください。

(参考)

「鳥取県ちいわかつながり総選挙」の開票結果（小学生）について

令和7年10月24日

小中学校課

鳥取県における主権者教育の初の試みとして、県内の小学6年生と中学3年生の児童生徒を対象に実施している「鳥取県ちいわかつながり総選挙」について、10月6日に、小学生版の開票結果が発表されたので、報告します。

※ちいわかつながり…地域とつながり、地域に愛着を持ち、地域のことを我が事ととらえて、積極的に投票その他政治参加する若者

1 鳥取県ちいわかつながり総選挙

鳥取県の主権者教育プログラムとして、小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部6年生、中学校・特別支援学校中学部3年生・義務教育学校9年生の児童生徒を対象に、鳥取県の施策等に関するオンライン投票を全県で実施。

2 総選挙の流れ

- ①県内の小学校、義務教育学校、特別支援学校に別紙のとおり教材を配布
- ②各学校において教材を活用し、授業・オンライン投票を実施
- ③投票結果を公表し、最多得票を得たものは実際に鳥取県の施策等に反映

3 令和7年度投票テーマ

小学生投票テーマ：3人目の「青谷弥生人」の名前を決めよう！

青谷上寺地遺跡（鳥取市青谷町）で出土した人骨をもとに顔が復元された女性の「青谷弥生人」について、3体目の青谷弥生人の名前を、公募で選ばれたA：穂波（ほなみ）、B：瑞穂（みずほ）、C：潮音（しおね）、D：琴海（ことみ）の4つの候補の中から、各学校の授業の中で、教材を活用し、オンライン投票した。

4 選挙結果

(1) 対 象	小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部6年生												
(2) 投票期間	令和7年9月1日（月）から9月30日（火）まで												
(3) 投 票 率	70.91% (3,384人 / 4,772人)												
(4) 開票結果	<table border="1"><thead><tr><th>第1位</th><th>D 青谷 琴海（ことみ）</th><th>1,043票 (30.8%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>第2位</td><td>B 青谷 瑞穂（みずほ）</td><td>842票 (24.9%)</td></tr><tr><td>第3位</td><td>A 青谷 穂波（ほなみ）</td><td>805票 (23.8%)</td></tr><tr><td>第4位</td><td>C 青谷 潮音（しおね）</td><td>694票 (20.5%)</td></tr></tbody></table>	第1位	D 青谷 琴海（ことみ）	1,043票 (30.8%)	第2位	B 青谷 瑞穂（みずほ）	842票 (24.9%)	第3位	A 青谷 穂波（ほなみ）	805票 (23.8%)	第4位	C 青谷 潮音（しおね）	694票 (20.5%)
第1位	D 青谷 琴海（ことみ）	1,043票 (30.8%)											
第2位	B 青谷 瑞穂（みずほ）	842票 (24.9%)											
第3位	A 青谷 穂波（ほなみ）	805票 (23.8%)											
第4位	C 青谷 潮音（しおね）	694票 (20.5%)											

5 授業で投票した児童と教員の感想（事後アンケートより）

<児童>

- ・選挙のやり方や進め方が分かった。質問や応援が大事になるということも分かった。
- ・（校内の）選挙は1票で勝ち負けがつくことが分かった。あと1票あれば勝てたかもしれないのに！悔しい。
- ・（校内の）結果は瑞穂になってしまったけど、全力で取り組めたので後悔はありません。選挙を体験したことで、選挙の仕組みやどんな思いで選挙に臨んでいるかもわかりました。
- ・ちいわかつながり総選挙で、どの党も様々な意見があり、どれも、なるほど！と思いました。最後の開票の時に接戦になり、胸が高まりました。改めて選挙の大切さを知ることができ、良かったです。

<教員>

- ・「選挙に参加した気分になった」「18才になつたら選挙に行くのが楽しみです」など、選挙に関してポジティブな気持ちになった児童が多かった。
- ・公開討論会を参観日に当てて、保護者にも投票のようすを見てもらえた。
- ・6年生社会の公民内容は1学期に学習するため、時期も学習と近い方が、指導に生かしやすい。県民の日とは離れてても、学習効果が高い方がいいと感じた。
- ・題材が「名前を決める」というものだったため、「実際の県の予算の使い道を、子どもたちの投票によって決める」など、自分たちの意見が政治に反映される経験があれば、よりやりがいを感じられると思う。

6 参考（主権者教育プログラム・教材作成に至るまでの経緯）

- 令和5年9月から12月にかけ、県内外の有識者を委員とし、県内の現職の首長や議長の参加の下、県民の政治参加を促進するための「投票率低下防止等に向けた政治参画のあり方研究会」が5回開催された。その報告において、「小・中学校等の早期の段階での主権者教育及び選挙体験が重要」であり、そのためには、「実践的な主権者教育を推進する上では、学校によって主権者教育の内容や量に差があるため、一定の水準を確保する観点から、カリキュラム的な連続性を持った主権者教育プログラムを作成し、当該プログラムに基づき全県下で体系立てて主権者教育を推進していくことが重要である。」という提言がなされた。
- これを受けて令和6年度に「ちいわかつながり総選挙」が立ち上げられ、小中学校的義務教育段階における児童生徒の民主主義の重要性への理解及び将来の政治参加を促進するため、小・中・義務教育学校において主権者教育を推進するための教育プログラム・教材の作成に向け、議論が行われた（全5回）。